

団体の概要 (NGO/NPO)

団体名 特定非営利活動法人 グローバル・スポーツ・アライアンス

所在地	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-1-11 5F TEL:03-6419-2900 FAX:03-6419-2877 E-mail: info@gsa.or.jp		
ホームページ	http://www.gsa.or.jp , http://www.ecoflag.com		
設立年月	1999 年 11 月 *認証年月日(法人団体のみ) 1999 年 11 月 11 日		
代表者	理事長 山本 正	担当者	常任理事 岡田 達雄
組 織	スタッフ 14 名 (内 専従 8 名) 個人会員 280 名 法人会員 55 名 その他会員(賛助会員等) 50 名		
設立の経緯	地球環境問題に強い危機感を覚えるスポーツ愛好家によって設立された。発足前の 1998 年 4 月、発起人らにより地球環境テニスフォーラムを開催。各国大使や国内の政財界関係者を対象にテニスを通じた国際交流と、「ゴールデンウィークをグリーンウィークに」を合言葉に「テニスができるのは地球環境のおかげ」という環境メッセージを発信。参加者から強い賛同を頂くことができ、スポーツと環境をテーマとする NPO 法人設立のきっかけとなった。		
団体の目的	この法人は、次世代の地球市民のために、スポーツイベント等を通じた地球環境保全に関する啓発、スポーツ用品のリサイクル、スポーツ施設の環境改善等に関する事業を行い、子どもの健全育成及び地球環境と共存する新しいスポーツ文化の創造に寄与することを目的とする。		
団体の活動プロフィール	1. スポーツ愛好家は、大気汚染や温暖化、光化学スモッグなど様々な環境問題の影響を直接受ける。放置すると、今を生きる我々だけでなく未来の世代もがスポーツを楽しめない社会になる。 2. スポーツ愛好家の数は全世界で少なくとも 10 億人以上と想定される。彼らがスポーツのジャンル、国境、宗教を越えて心を 1 つにし、環境問題に積極的に意識を働かせれば、大きなムーブメントになる。 以上の考えに基づき、当法人では、下記の活動を実施している。 ● 「エコフラッグムーブメント」によるスポーツ界の環境意識啓発 ⇒スポーツ愛好家の心を 1 つにするシンボル「エコフラッグ」の普及活動 ● 「G-ForSE (ジーフォース)」スポーツと環境の世界フォーラム運営 ⇒スポーツ界で行われている環境先進事例の紹介や、スポーツ界に向けた環境政策提言の実施 ● スポーツ用品の 3R 推進 ⇒使用済みテニスボールを使った小学校消音プロジェクト実施 ⇒不用スポーツ用品を組み合わせたアートプロジェクトの実施 なおこれらの活動は国連環境計画 (UNEP) との共同推進で実施している。		

活動事業費 (平成14年度)

円

政策のテーマ

環境問題をスポーツから！エコフラッグムーブメントの実施

■政策の分野

- ・ ⑨環境パートナーシップ

■政策の手段

- ・ ⑭国際環境協力・スポーツ界とのパートナーシップ
- ・ ⑧環境教育・学習の推進

団体名：特定非営利活動法人

グローバル・スポーツ・アライアンス

担当者名：常任理事 岡田達雄

① 政策の目的

本政策はスポーツ愛好家（市民）の環境意識啓発を図り、持続可能で安心してスポーツができる社会づくりのために、スポーツ愛好家パートナーシップ構築を目的とする。小中学校の運動会から世界選手権まで、あらゆるスポーツ競技・イベント等関係者に働きかける。環境意識の高まった市民が子どもから大人まで、スポーツマンシップにより自発的な環境活動へと促す。

② 背景および現状の問題点

例えば、誰しも大気汚染の激しいところでスポーツをしたいとは思わないはず。これら環境問題の解決はスポーツ界でも最重要課題であり、そのためにはスポーツのジャンル、規模を超え、また国境を越えた協力体制が必要になる。

スポーツの要素であるフェアプレイやチームワーク、チャレンジ精神などの考え方も、環境問題への心構えとして最適であり、しかも世界中でスポーツを楽しむ人口は少なくとも10億人以上と推計される。そこでスポーツ界の心を1つにすべく、そのシンボルとして考案したのが「エコフラッグ」である。全て寄付によってまかなわれており、収益性に問題点を有しているが、エコフラッグに対して多くの理解が得られるようになれば解決するものと考えている。

③ 政策の概要

環境問題の解決に向けて、法規制等による市民活動への「制限・強制」よりも、市民自らが環境配慮形の行動を常に変換する、自発的な市民の養成が不可欠だと考える。本政策は、スポーツと環境を結びつけることで、スポーツマンシップに基づいた自発的な環境活動に結びつけることをめざした。

そこで、エコフラッグを、規模の大小は問わずあらゆるスポーツ団体での掲揚を推進し、各地でスポーツを通じて環境問題への意識を高め、普段の生活に反映されるようめざした。実質的に2002年度から開始された本政策は、現在までに約3900枚が全世界に配布されている。

スポーツ愛好家による環境パートナーシップを形成し、そのシンボルとしてエコフラッグを使用する。より多くの仲間が参加することで、力が大きくなるだろう。

特に今年6月、国際バレーボール連盟（FIVB）主催のビーチバレーボール世界選手権ツアーに採用され、全ての会場でエコフラッグが掲げられた。旗を通じて選手や観客、大会会場関係者の全員が環境に対する関心を高めることができた。さらに、選手・観客の全員が参加したビーチクリーンアップも実現。当NPOとイベント主催者であるFIVB、選手、観客、施設管理者、地元自治体などがエコフラッグのもとで環境パートナーシップを形成することができ、

イベントに大きな意味をもたせることが出来た。

④ 政策の実施方法と全体の仕組み

1. 地域でのエコフラッグ（地域特性に見合った、環境啓発と環境活動の実施）

- 各地で行われるスポーツ大会でエコフラッグを掲げる。開会式等で、主催者より「スポーツができる地球環境を大切にしよう」というメッセージと旗の説明を行うことにより、参加者の環境意識を向上させる。
- 小中学校の運動会での使用を推進する。世界選手権で使われた全く同じ旗を使用することで、子どもたちの参加意欲を高めることが出来る。また、運動会でのエコフラッグ使用は、環境教育の一環としても効果があるものと考えられる。教育委員会等とのパートナーシップを結びたいと考えている。

2. 世界でのエコフラッグ（世界各地の仲間とのネットワーク）

- 世界選手権での掲揚をめざし、国際スポーツ団体へのアプローチを積極的に推進する。世界大会で、憧れのアスリートがエコフラッグを掲げて環境メッセージを発信すれば、ファンをはじめ、スポーツ関係者多数に大きな影響を与えることが出来る。（日本でも、プロビーチバレーボール選手、西村晃一選手・朝日健太郎選手が、エコフラッグを積極的に活用してくださっている。）
- 各地域活動も含めて、全ての事例をエコフラッグホームページで紹介する。（レポートと写真を投稿する）エコフラッグホームページで、世界各地のエコフラッグムーブメント参加者が紹介され、ホームページを通じて参加者同士の交流を図る。

※ 運営資金について

活動主旨をご理解いただいた個人や企業による募金を通じて実施されている。また、募金箱を各地で設置し、より多くのスポーツ大会でエコフラッグが掲げられるための資金に充当している。募金の一部により、世界子ども環境会議の運営支援と、地雷除去によるスポーツ環境整備に充当される。

⑤ 政策の実施主体（提携・協力主体など）

エコフラッグムーブメントは、当NPOと国連環境計画（UNEP）とのパートナーシップで実施されている。エコフラッグの申込受付、WEBサイトの運営等の事務局活動は、当NPOが行っている。

普及については、両団体共同で各方面にアプローチを実施。国際スポーツ団体での採用に向けた働きかけを行う。

日本国内については、当NPO事務局と当NPO会員、ボランティアの手により普及活動を行っている。

今後は各市町村の教育委員会とも積極的に交流し、小中学校の運動会等、スポーツ大会での採用を推進したい。

また、WEBサイトへのアクセスを通じて、エコフラッグムーブメントへの参加者を集める努力も継続する。

エコフラッグ募金の一部は、国連環境計画主催の世界子ども環境会議（2005年、名古屋）の支援と、内戦時に埋められた地雷に苦しむカンボジアの地雷除去を支援する。特に、小中学校近隣に埋められた地雷除去を支援し、安心してスポーツができる学校を取り戻したいと考えている。

⑥ 政策の実施により期待される効果

昨今、市民の環境問題・環境対策などに関する知識は高まってきているので「〇〇しよう」や「〇〇はよくない」といった従来型の個別アピールではなく、「スポーツができる環境を守るために自分で出来ることを行おう」といった形の、環境活動にためらいをもつ市民の背中を押して上げることが大事だと考える。

スポーツ大会でのゴミの削減、清掃活動などの美化整備、一步進んだ緑化運動などが、エコフラッグを使用することにより参加者が「自発的」に実施することが期待される。

環境保全活動・環境教育推進法が施行され、環境意識の啓発も重要視される中、特に、小中学校での使用は大きな効果が期待できるものと考ええる。

また、エコフラッグをシンボルとした、自治体と環境NP0だけでなく、さらにこれまではなかったスポーツ団体、スポーツNP0などとのパートナーシップも実現できるのではと期待する。環境問題は環境の専門家だけが取り組む時代ではないので、エコフラッグをきっかけに、新たな流れが生まれればと期待する。

⑦ その他・特記事項

(類似事例)

国際サッカー連盟（FIFA）のフェアプレイキャンペーンは、試合前に、フェアプレイ旗を観客と選手に掲げて訴えることにより、フェアプレイの遵守を呼びかけている。この旗は同時に、普段の生活での「フェアプレイ」も訴えている。

今年開催されているラグビーのワールドカップでは、「Tackle Hunger（飢えと戦おう）」がテーマとなっている。一見ラグビーと飢餓との関連性は感じられないが、ラグビーワールドカップを視聴する人は30億人を突破すると考えられており、試合を見ている人に向けてこれらのメッセージを伝えることによる「意識」の啓発を図っている。

このような大規模イベントでのメッセージは、世界に対して大きな意味を放つ。

当NP0のエコフラッグを活用することで、きっと世界のスポーツ愛好家が環境問題のために立ち上がり、何らかの行動を行うようになるだろうと期待している。